

ふるさと名品オブ・ザ・イヤーとは

内閣府、農林水産省、経済産業省後援のもと、民間企業などが独自の切り口による部門提供者として推進し、地域の名品とそれを支えるストーリーを応援する表彰制度。この制度においてリクルートジョブズは、「地方創生を担う働き手を確保するには、主婦やシニアなどの多様な方が働ける環境をつくる」ことが重要との考えから、「主婦やシニアの方の活躍創出部門」を提供。2018年度にエントリーいただいた、地方創生に貢献する全国各地9事業者の人名・商品取り組みについてご紹介します。

「働きやすさ」のもう一歩先へ やりがいが品質も高める

株式会社タナイ (愛知県豊川市)



▲sasiccoのバッグはデザイン性が高く、軽くて頑丈。世界ユネスコ会議や伊勢志摩サミットで関係者に向け資料を配布するバッグとして採用されたことから、その実力が伺える。「三河木綿を使ったsasiccoが広まることで『三河』の地域をアピールできます。地域をしっかりとした形で発展させていきたい」(種井さん)

▼現在、工房で働く職人はすべて女性。縫いや裁断について意見を出し合うなど、世代を越えて共に働くことで技術継承も自然に行われている



株式会社タナイ

愛知県豊川市御津町西方中屋敷35番地
TEL 0533-76-4181
<事業内容>柔道衣、刺し子地衣類、三河木綿を使ったバッグなどの製造販売
<http://www.mikawa-momen.com>

捨てられるはずの生地を、職人こだわりのバッグに再生！
三河木綿の生地が道着を主につくってきた老舗メーカー、株式会社タナイ。時代の流れで道着の売り上げが伸びなくなるなか、新たなヒット商品が生まれました。三河木綿の刺し子織を使用しつくられたバッグ「sasicco」です。「何か新しい展開をしなくては」という思いはありましたが、「今ある材料で」「今ある設備で」「今いる人で」「できるものを模索しなくてはなりません」と。そこで種井さんは職人たちが余りの生地で作っていたマイバッグに注目し商品化。職人たちのこだわりが詰まったバッグは瞬間に評判を呼び、販路を広げていきます。

働きやすさとやりがいを両立しモチベーションをアップ

工房で働く職人たちに話を伺うと、「つくりたいものをつくれるのが嬉しい」「つくってみたいデザインがある」と皆さんイキイキとした表情で話してくださったのが印象的でした。「魅力ある商品を生み出すためにはつくり手がやりがいをもちたい」と種井さん。休みの取りやすさなど環境を整えるのはもちろん、意見やデザインを積極的に採用し商品化につなげ、職人が常に高い意欲を持てるよう注力しています。職人の一人、太田伸与さんは子どもを持つ主婦ですが「まだまだ習得したい技術もあるので、ずっと仕事は続けたい」と語ってくれました。



▲三河木綿の伝統を守りつつ技術革新にも注力してきた、代表取締役の種井美文さん。さまざまな世代の女性が働くこの工房では、働きやすさの重視はもちろん「工房で働くのが楽しいという気持ちを持ってもらいたい」という。魅力ある商品を生み出すためには、つくり手がやりがいをもちて仕事をするのが何よりも重要と語ってくれました

リクルートジョブズのサイトにて詳細をご紹介します。 <https://www.recruitjobs.co.jp/furusato/>

